

**阿賀野市の転入転出者
まちづくりアンケート
調査報告書 《1次集計版》**

平成 27 年 8 月

新潟県 阿賀野市

内 容

1 調査目的.....	1
2 調査概要.....	1
2.1 回答者プロフィール	2
2.2 回答者の家族.....	4
2.2.1 転入者の家族	4
2.2.2 転出者の家族	5
2.2.3 転入転出時の子どもの就学状況	6
2.2.4 阿賀野市の居住地.....	6
3 調査結果	7
3.1 地域移動（転入元、転出先）	7
3.2 居住期間と阿賀野市での居住経験.....	8
3.2.1 居住期間	8
3.2.2 移転理由	10
3.3 転居時の住まいの形態と理由.....	11
3.3.1 住まいの形態	11
3.3.2 阿賀野市と他市町村との住まいの比較.....	13
3.4 阿賀野市の住みやすさ	14
3.5 居住地決定時に重視すること.....	15
3.5.1 居住地決定時の重視点	15
3.5.2 転入時の行政サービスの検討	15
3.6 阿賀野市の魅力	18

1 調査目的

阿賀野市では、同市の将来を考える人口ビジョン、地方版総合戦略を策定するにあたり、人口減少社会に対応し、阿賀野市の魅力を活かした“まちづくり”をめざし、阿賀野市へ転入、阿賀野市から転出した市民を対象に調査を実施した。調査内容は、転入転出の理由、阿賀野市の住みやすさとともに、その魅力やよい点などを明らかにし、今後の施策策定の参考とするものである。

2 調査概要

本調査の対象者は、平成 25 年 1 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日の期間中に阿賀野市に転入した 1,142 人及び平成 25 年 8 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日の期間中に転出した 1,090 人全員を対象に調査票を郵送し、平成 27 年 6 月 29 日～7 月 10 日の期間中に返信された 602 件を分析したものである。

回答者の内訳は、図表 1 のとおり。

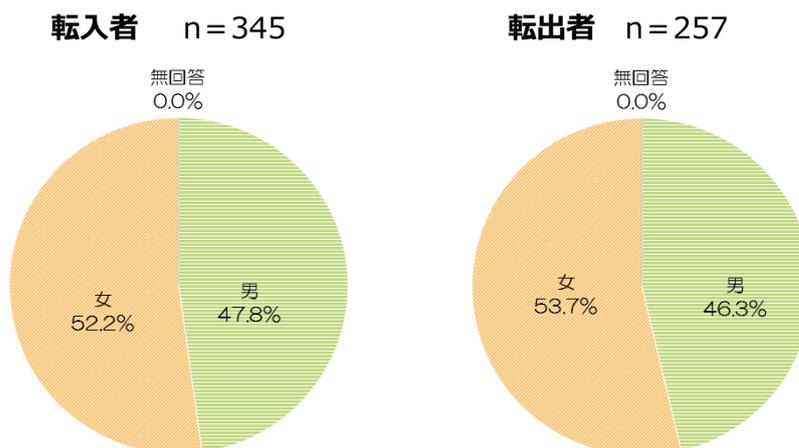
図表 1 阿賀野市 転入・転出者向け「まちづくりアンケート」の概要

	転入者	転出者
対象者数	1,142 人	1,090 人
回収数	345 件	257 件
回収率	30.2%	23.6%
調査期間	平成 27 年 6 月 29 日～7 月 10 日	平成 27 年 6 月 29 日～7 月 10 日
調査方法	郵送法	郵送法

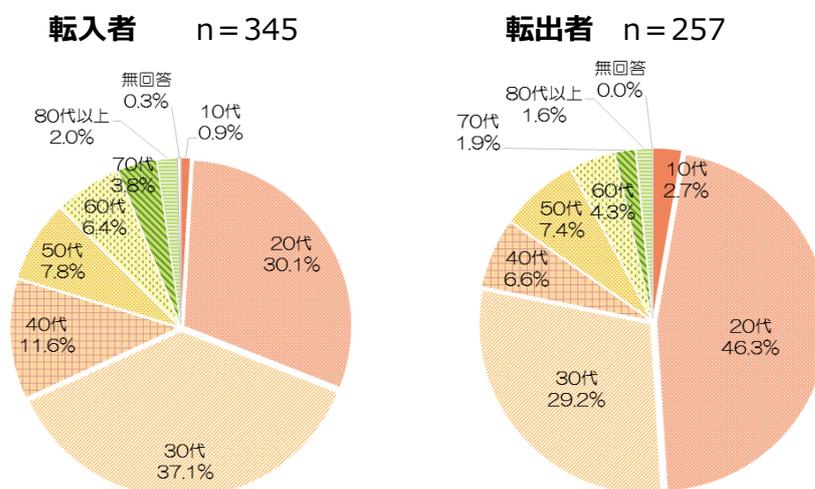
2.1 回答者プロフィール

回答者のプロフィールは図表2～4のとおり。

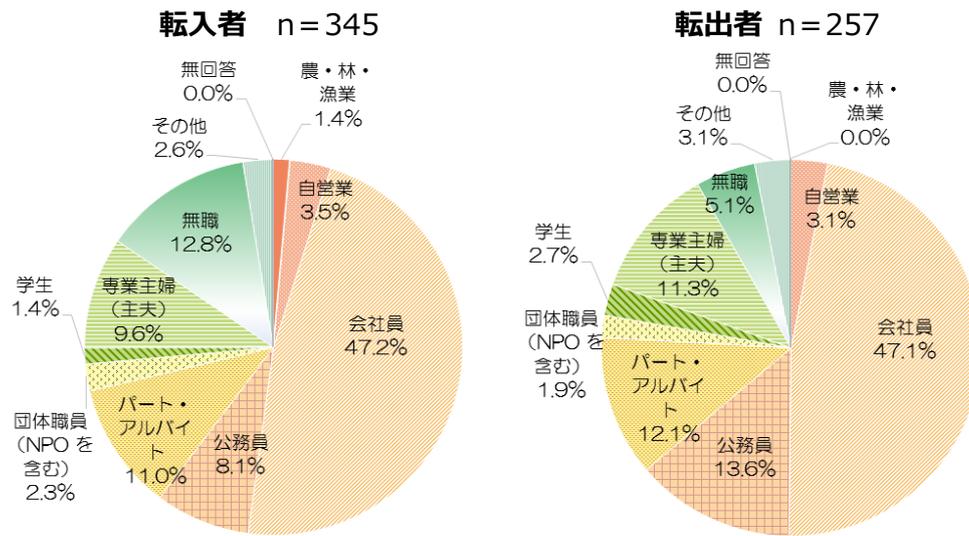
図表2 回答者の性別



図表3 回答者の年代



図表 4 回答者の職業



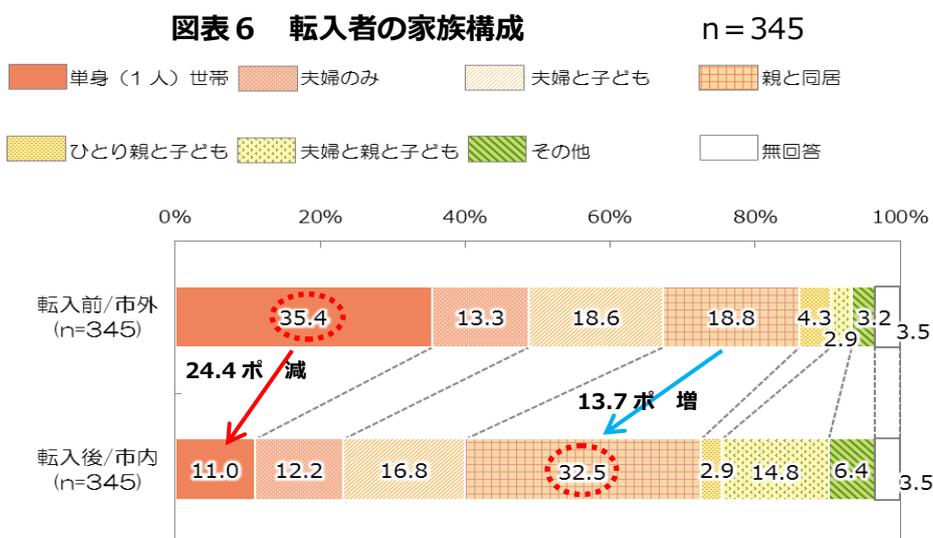
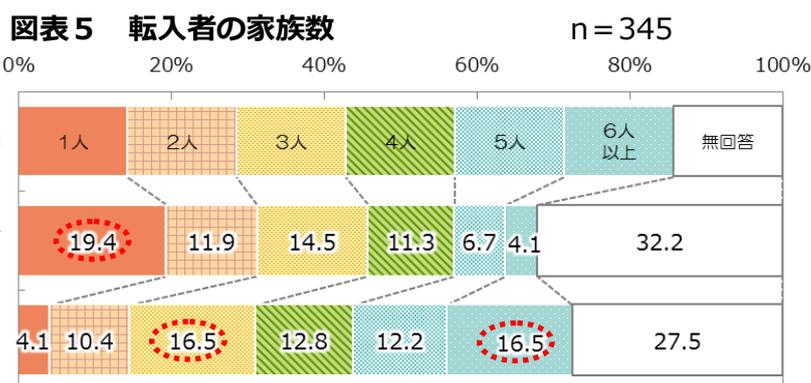
2.2 回答者の家族

2.2.1 転入者の家族

転入前の家族構成は「1人」19.4%が最も多く、次いで「3人」14.5%、「2人」11.9%、「4人」11.3%と続く。その理由として、転入者の約7割が20代、30代であるため、単身や核家族世帯の家族構成が多いからだ。しかし、転入後は「3人」16.5%と「6人以上」16.5%が同数トップとなり、次いで「4人」12.8%と続き、全体として大家族化していることが伺える。

また、転入者の家族構成を見ると、転入前は「単身（1人）世帯」35.4%、「親と同居」18.8%とほぼ同じ割合で「夫婦と子ども」18.6%と続く。転入後は「親との同居」32.5%、「夫婦と子ども」16.8%が多い。

転入前と転入後の比較では、「親と同居」が13.7ポイント増えている（18.8%→32.5%）。一方、「単身世帯」は24.4ポイント減少している（35.4%→11.0%）。家族構成の動きから、若い世代の単身世帯の転入者が、阿賀野市に戻ってきて親と同居し、「二世帯、三世帯同居」になったことが伺える。

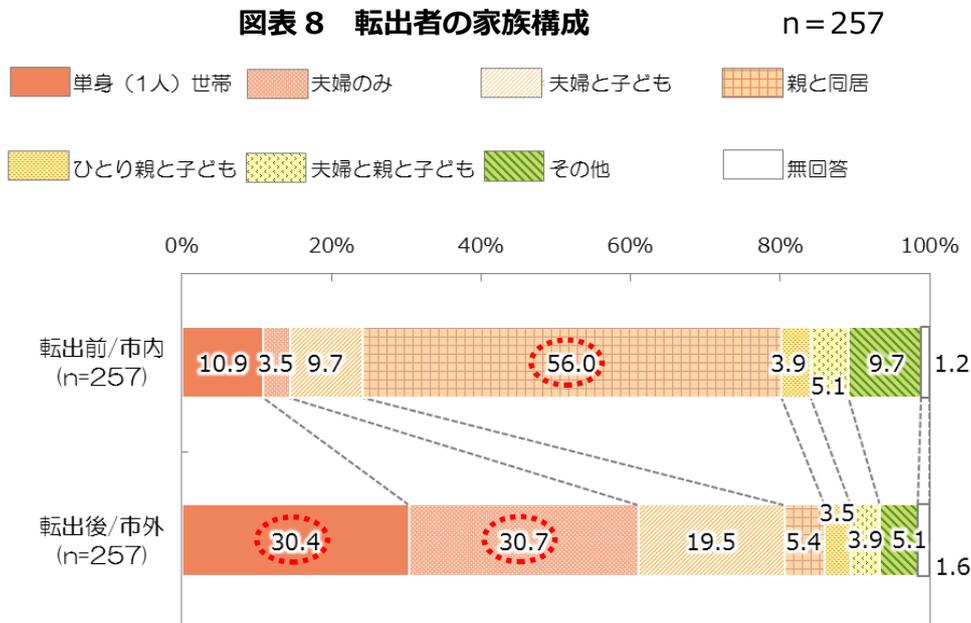
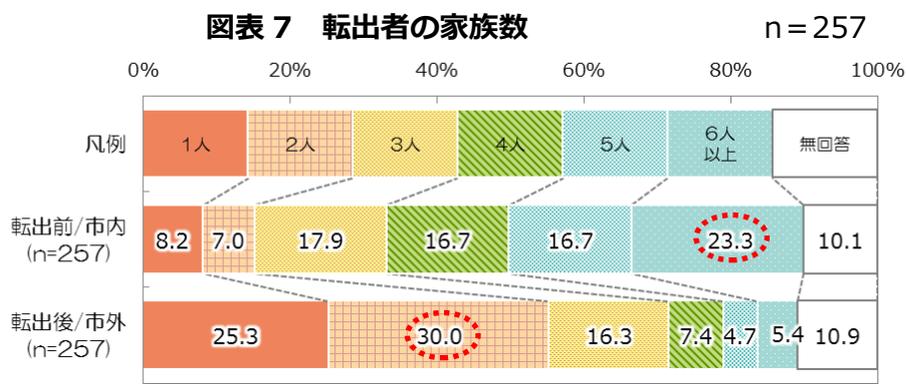


2.2.2 転出者の家族

阿賀野市の特徴として、若い世代の転出者が多く、「20代」が46.3%、「30代」29.2%と約4分の3がこの世代である。転出者の家族数は、転出前が「6人以上」23.3%、「3人」17.9%、家族数「4人」と「5人」が同数の16.7%と続く。転出後は「2人」30.0%がトップ、「1人」25.3%、「3人」16.1%と続く。

転出者の家族構成を見ると、転出前は「親と同居」56.0%と圧倒的に多い。転出後は「夫婦」30.7%、「単身世帯」30.4%、「夫婦と子ども」19.5%である。

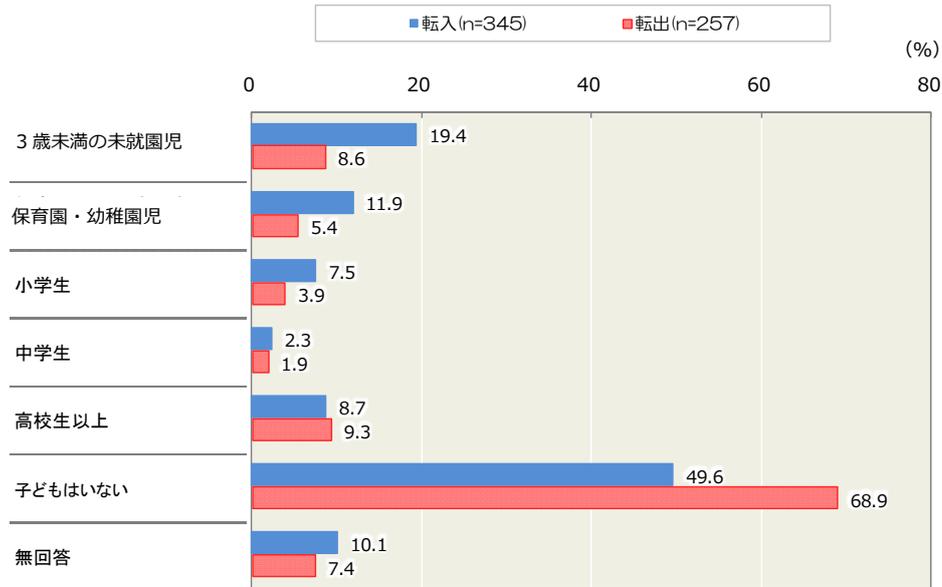
転出前と転出後の比較では、家族構成は“大家族から核家族へ”と大きく変化している。



2.2.3 転入転出時の子どもの就学状況

回答者全員の転入・転出時の同居する子どもの就学状況は、以下のとおりである。転入・転出者ともに7割が20代、30代の回答者であるため、「子どもはいない」がトップとなったが、それを除くと「3歳未満の未就園児」、「保育園・幼稚園児」未就学児童を伴う引越しが多い。

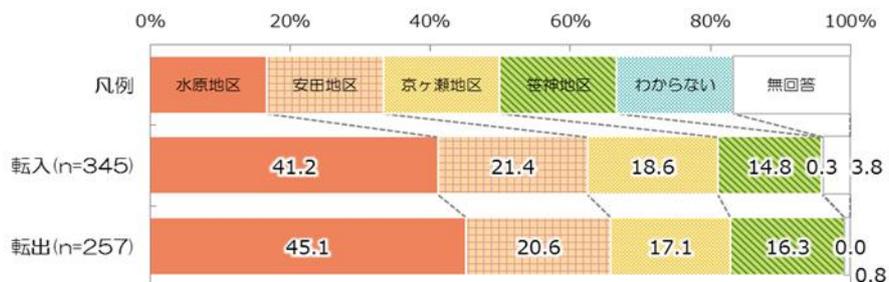
図表 9 転入転出者の子どもの就学状況 (複数回答)



2.2.4 阿賀野市の居住地域

転入者が現在、住んでいる地域は「水原地区」41.2%、「安田地区」21.4%、「京ヶ瀬地区」18.6%、「笹神地区」14.8%。転出者が阿賀野市で住んでいた地区は「水原地区」45.1%、「安田地区」20.6%、「京ヶ瀬地区」17.1%、「笹神地区」16.3%であり、転入、転出の出入りの地区順位に変わりはない。「水原地区」の転入転出者が多いことがわかる。

図表 10 阿賀野市における居住地域 (転入者、転出者)



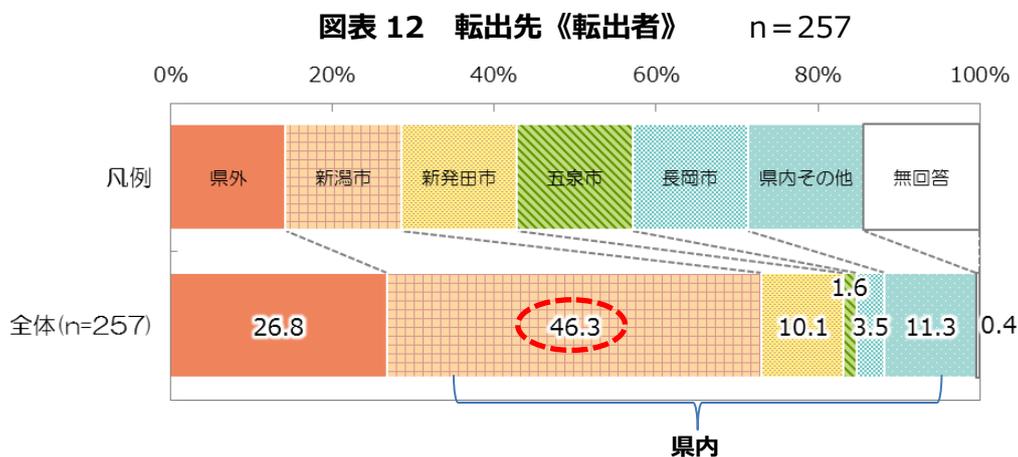
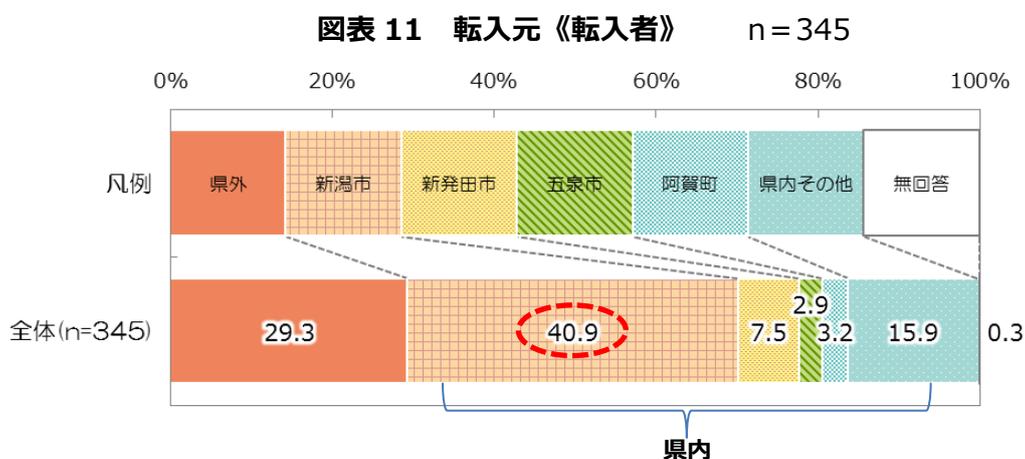
3 調査結果

3.1 地域移動（転入元、転出先）

転入者がいずれの地域から引越しをしてきたかを尋ねた設問では、転入元が「新潟市」である人は40.9%と最も多く、「県外」29.3%、「その他県内」15.9%であった。

転出者の移転先は、「新潟市」46.3%、「県外」26.8%、「県内その他」11.3%、「新発田市」10.1%。

転入元、転出先はいずれも7割以上が県内であった。



3.2 居住期間と過去における阿賀野市での居住経験

3.2.1 居住期間

阿賀野市に転入してきた人たちが以前の住まいに何年間居住していたか、また転出者が何年間、阿賀野市に居住していたかを調べた。

転入者の転入前の居住年数は、『短期居住者（0～5年未満）』が51.6%、『中期居住者（5～20年未満）』が22.3%、『長期居住者（20年以上）』が23.8%となっている。内訳は、短期居住者は「1年未満」9.0%、「1～3年未満」23.8%、「3～5年未満」18.8%、中期居住者は「5～10年未満」13.3%、「10～20年未満」9.0%、長期居住者は「20年以上」23.8%である。

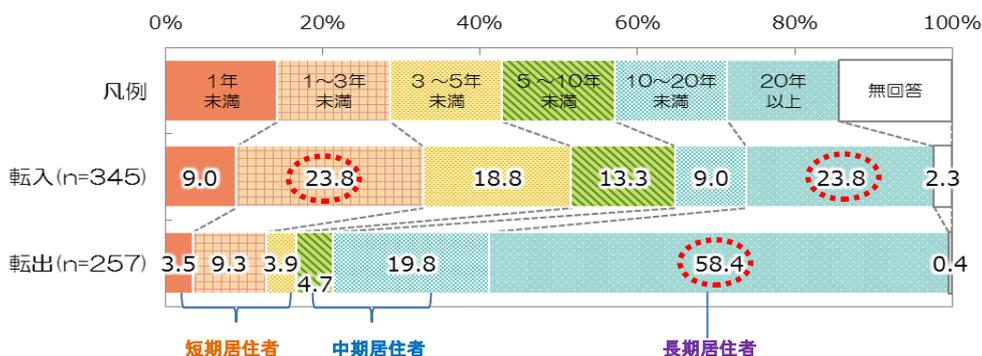
「1～3年未満」と「20年以上」が同数トップで挙げられたのは、次項の移転理由を考慮すると、“家族からの独立”や“親との同居”などが考えられる。

また、「過去に、阿賀野市で居住した経験」の有無は、「あり」が58.0%、「なし」が39.1%と6割弱が阿賀野市居住経験のあるUターン組である。

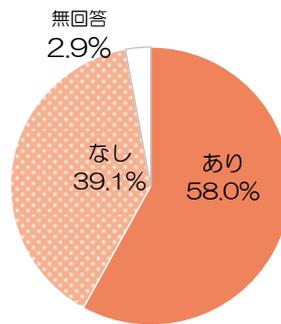
転出者の居住年数は、『短期居住者（0～5年未満）』が16.7%、『中期居住者（5～20年未満）』が24.5%、『長期居住者（20年以上）』が58.4%となっている。内訳は、短期居住者は「1年未満」3.5%、「1～3年未満」9.3%、「3～5年未満」3.9%、中期居住者は「5～10年未満」4.7%、「10～20年未満」19.8%、長期居住者は「20年以上」58.4%である。

長期居住者が6割と多いのは、親元から就職や結婚のために独立する者が多いからといえよう。次項の移転理由からみると、家族から独立43.0%、次いで就職などの仕事都合が17.5%と挙げられている。

図表 13 転入元の居住期間、阿賀野市における居住期間



図表 14 過去の阿賀野市における居住経験（転入者）



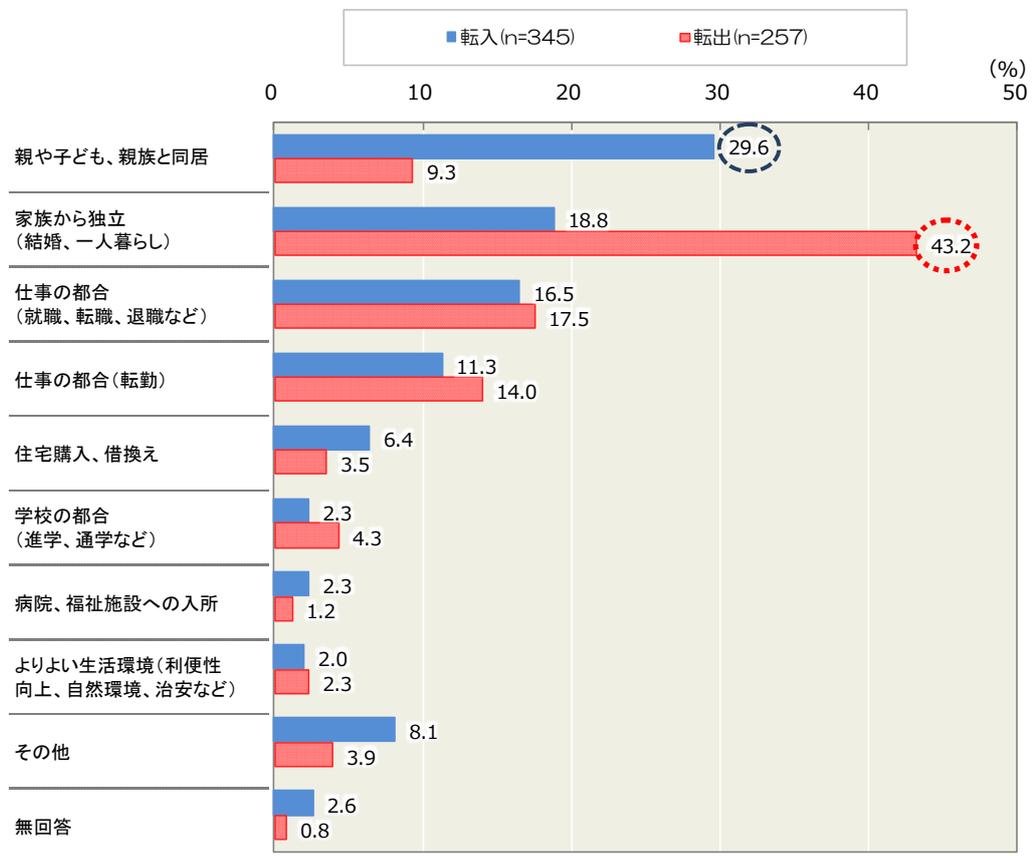
3.2.3 移転理由

移転の理由を聞いたのが、次の図表である。転入者は「親や子ども、親族と同居」29.6%が最も高く、「家族から独立（結婚、一人暮らし）」18.8%、「仕事の都合（就職、転職、退職など）」16.5%、「仕事の都合（転勤）」11.3%となっている。

転出者は「家族から独立（結婚、一人暮らし）」43.2%が最も多く、次いで「仕事の都合（就職、転職、退職など）」17.5%、「仕事の都合（転勤）」14.0%と続く。

多くの場合、移転の理由は転勤や就職・転職、退職などの「仕事の都合」が多いが、阿賀野市の転出者の場合は若い世代が多いため、家族からの独立がトップに挙げられた。また、転入は親との同居がトップとなっている。

図表 15 移転の理由



3.3 転居時の住まいの形態と理由

3.3.1 住まいの形態

転入者の住まいの形態は、転入前は「民間賃貸」が 42.3%と高く、「持ち家(一戸建て)※」 36.8%となっている。転入後は「持ち家(一戸建て)」 77.7%がトップとなり、2位の「民間賃貸」 12.5%を大きく引き離している。

転入前と転入後の比較では、「持ち家(一戸建て)」が 40 ポイント強向上 (36.8%→77.7%) し、「民間賃貸」は約 30 ポイント (42.3%→12.5%) 低下した。

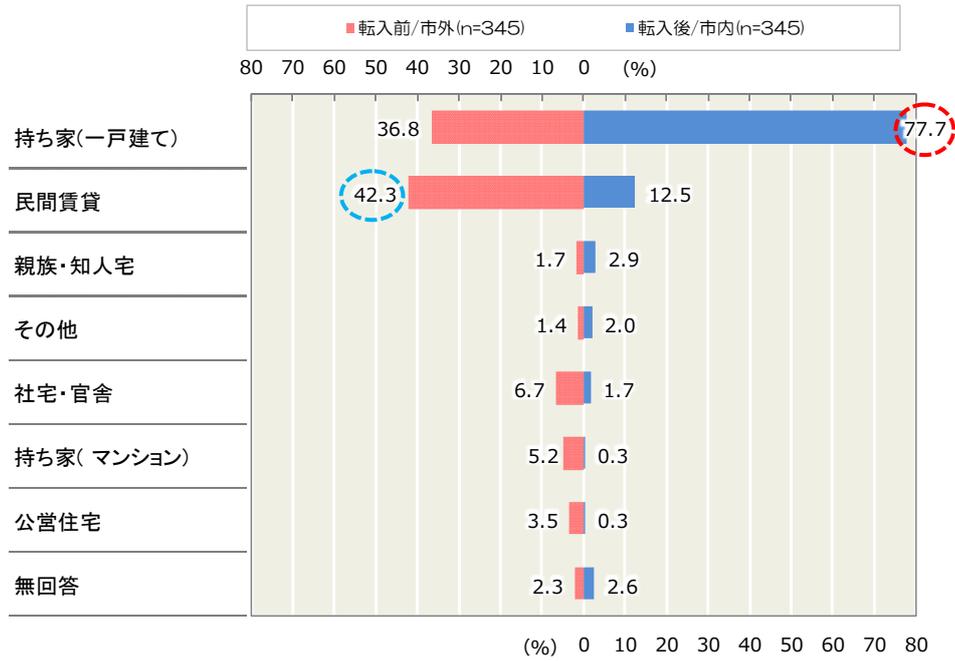
阿賀野市の住環境は持ち家(一戸建て)が主流であるため、親との同居支援などの取組が必要となろう。

転出者の住まいの形態は、阿賀野市在住時は「持ち家(一戸建て)」 78.2%がトップで、2位は「民間賃貸」 11.3%である。転出後は「民間賃貸」 55.3%が増え、「持ち家(一戸建て)」が 22.6%と順位が逆転する。

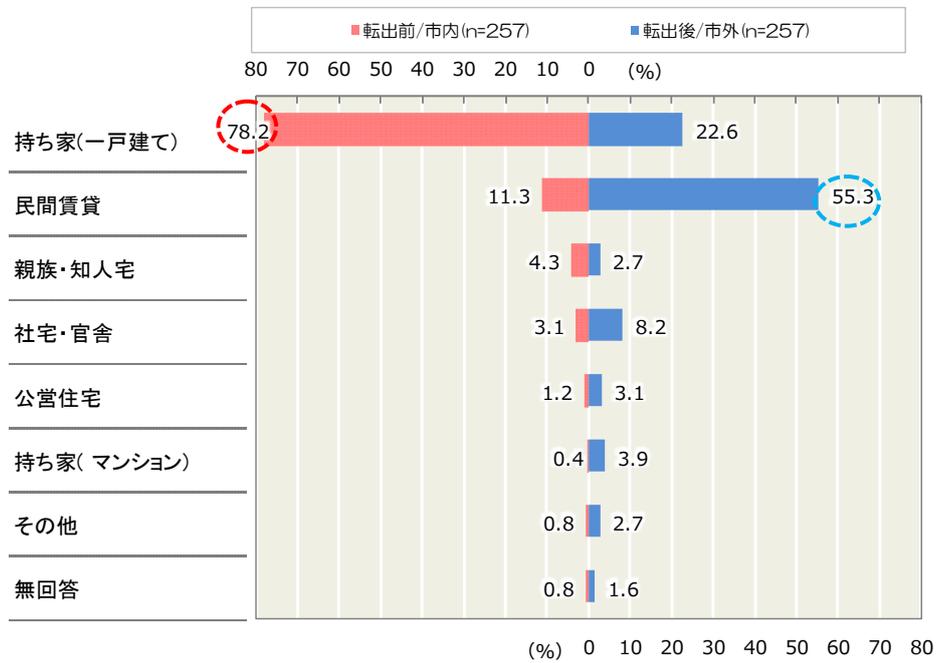
転出前と転出後の比較では、持ち家一戸建てであった人たちの大半が、市外では民間賃貸へ移行していることが伺える。

※同居親族の持ち家(一戸建て)を含む。

図表 16 転入者の住まいの形態



図表 17 転出者の住まいの形態



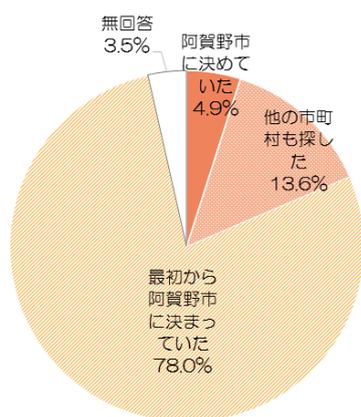
3.3.2 阿賀野市と他市町村との住まいの比較

転入時における、阿賀野市と他の市町村との住まいを比較検討する設問では、「最初から阿賀野市に決まっていた（寮、社宅、同居、すでに家があった、など）」78.0%が圧倒的に多く、次いで「他の市町村も探した」13.6%であった。「阿賀野市内に魅力を感じており、住もうと決めていたので、他は探さなかった」4.9%と、「他の市町村も探したが、阿賀野市に決めた」13.6%という、“阿賀野市好意派”が約2割弱（18.5%）いる。

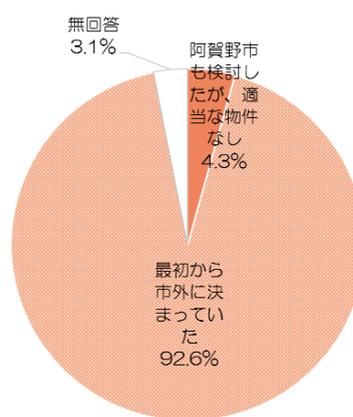
転出時における阿賀野市内での住まい探しの検討の有無は、「最初から市外に決まっていた」が92.6%と大多数を占め、「阿賀野市で探したが、適当な物件がなかったために、市外に決めた」は4.3%と少数であった。

図表 18 阿賀野市と他市、住まい探しの検討

転入者 n = 345



転出者 n = 257

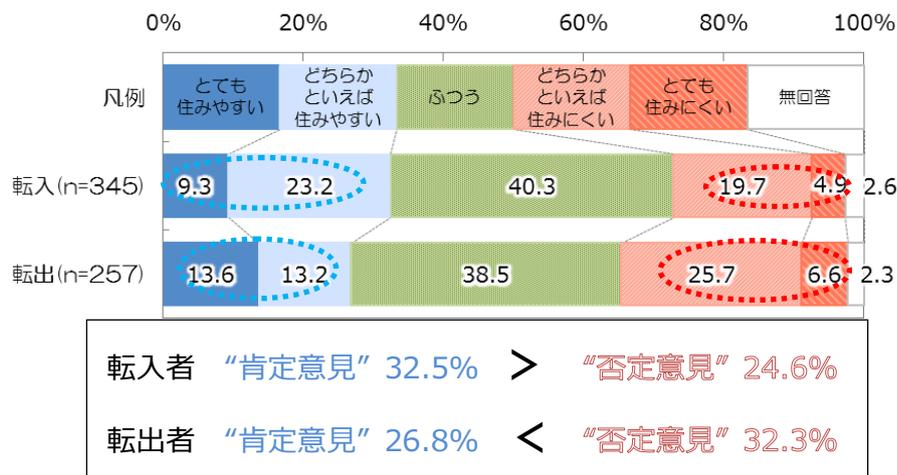


3.4 阿賀野市の住みやすさ

転入者に阿賀野市の住みやすさについて聞いたところ、「とても住みやすい」9.3%と「どちらかといえば住みやすい」23.2%を合わせた“肯定意見”の合計は3割強となっている。一方、「とても住みにくい」4.9%と「どちらかといえば住みにくい」19.7%と合わせた“否定意見”の合計は24.6%となり、否定意見より肯定意見が約8ポイントほど上回った。

しかし、転出者に尋ねた阿賀野市と現在の住まいとの住みやすさの比較は、「(阿賀野市のほうが)とても住みやすかった」13.6%と「どちらかといえば住みやすかった」13.2%を合わせた“肯定意見”の合計が26.8%となっている。一方、「(阿賀野市のほうが)とても住みにくかった」6.6%と「どちらかといえば住みにくかった」25.7%を合わせた“否定意見”の合計は32.3%となっており、肯定意見よりも否定意見のほうがやや上回った。

図表 19 阿賀野市と他市町村との住みやすさ比較



3.5 居住地決定時に重視すること

3.5.1 居住地決定の重視点

居住地を決定する際の重視点は、転入者は「交通の便のよさ」58.6%、「買い物が便利」53.6%、「子育てがしやすい環境」44.9%、「医療機関の充実」44.3%、「働く場がある」40.6%となった。他の市町村では多くの場合、利便性を考慮する人のポイントが高い。しかし、阿賀野市の転入者は約8割が同市に居住することが『決まっていた』人たちであり、6割が阿賀野市に居住経験を持つ人たちであるため、同市の事情・特徴を熟知しており、生活の利便性を重視する人たちが少なかったといえる。

一方、転出者の重視点は「交通の便のよさ」77.8%、「買い物が便利」69.6%、「働く場がある」52.1%が上位3項目となった。

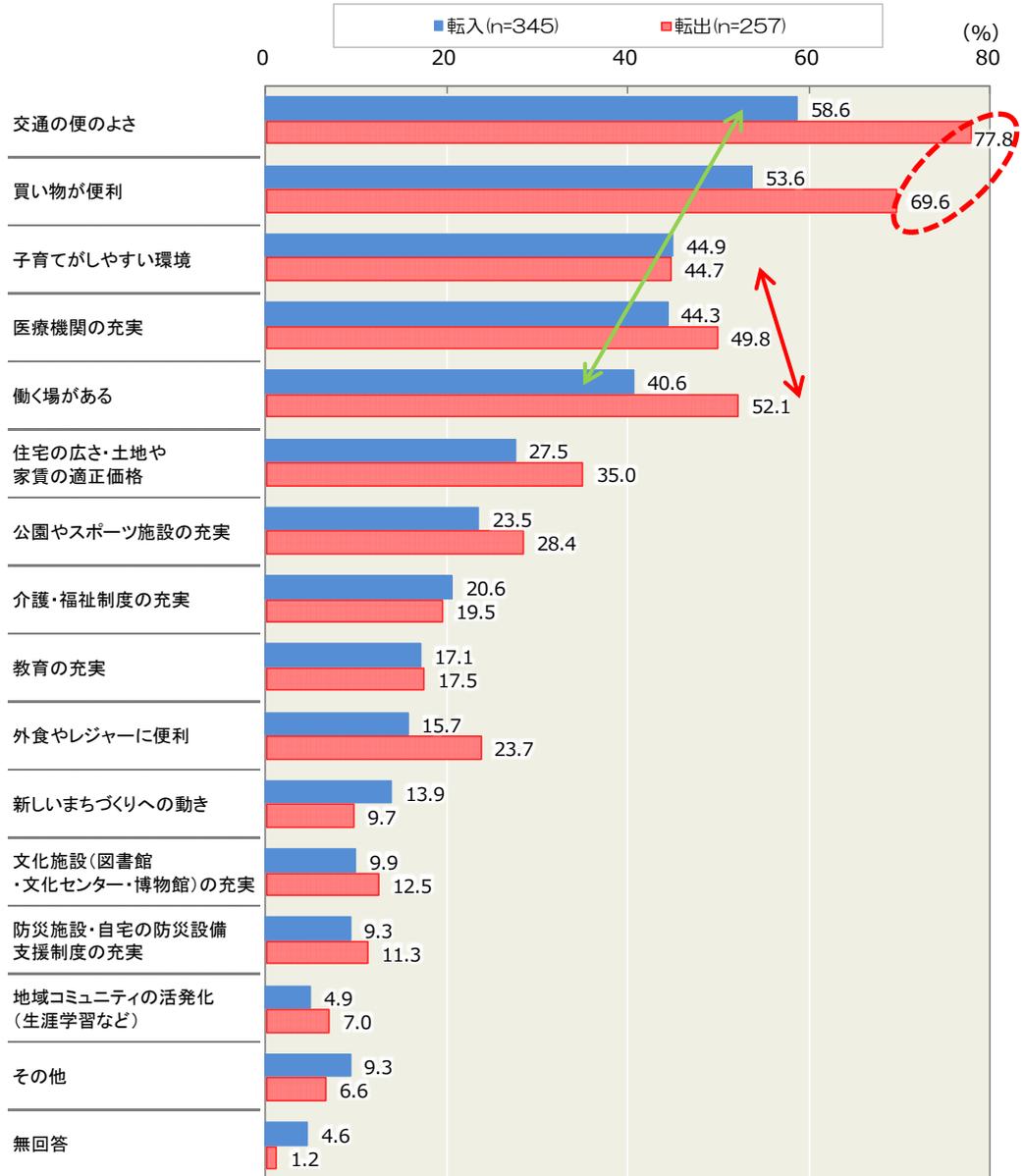
3.5.2 転入時の行政サービスの検討

阿賀野市へ転入する際に、行政サービスや支援制度の確認は、「調べた」が11.3%で、「調べなかった」は85.5%であった。転入者の約8割が「最初から住まいが決まっていた」人たちであることを考えれば、当然の結果であろう。

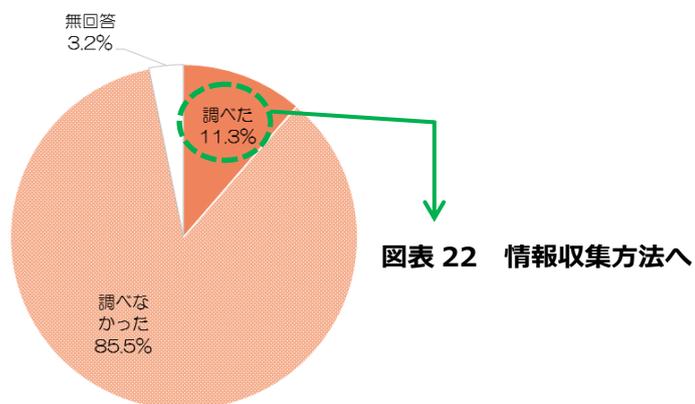
また、11.3%の「調べた」と回答した39人に、その方法を聞いた結果、「市のホームページ」が最も多かった。しかし、この回答者数が39人と少数であるため、参考値としてみておきたい。

図表 20 居住地決定時の重視点

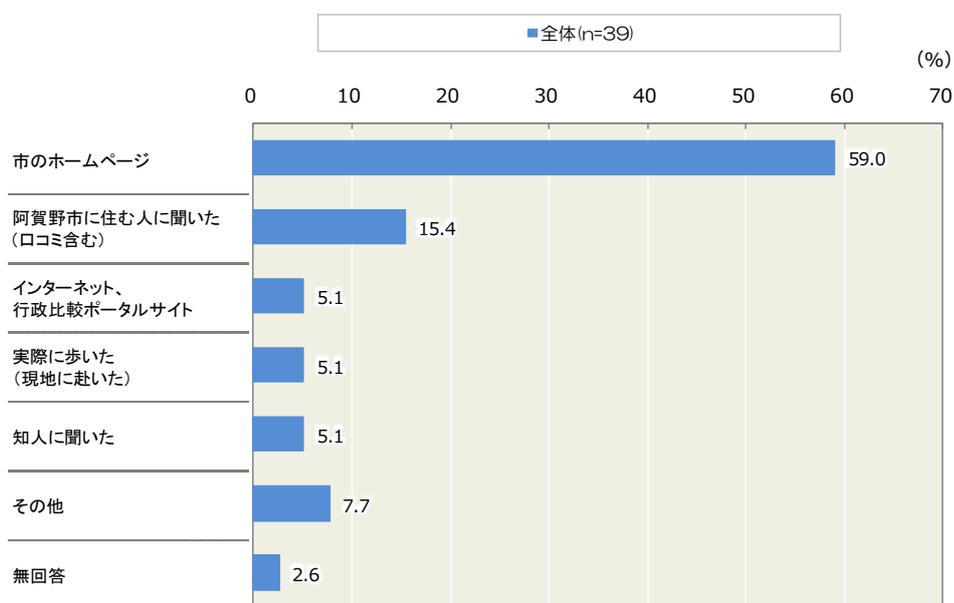
(複数回答)



図表 21 居住地決定の際の行政サービス確認の有無



図表 22 居住地決定の際の情報収集方法



3.6 阿賀野市の魅力

阿賀野市に魅力を感じる点・魅力を感じない点（転入者）、よい点・わるい点（転出者）を3つまで複数回答として挙げてもらった。

転入者が阿賀野市に魅力を感じる点は、「自然環境」が55.4%と最も高く、次に挙げられる項目はすべて10%台とトップと大きく差がついた。2位以下は上から「環境のよい住宅地」、「住宅の広さ、土地が適正価格、家賃など住宅事情」、「公園や緑地、水辺の整備」、「防犯・災害対策が充実（犯罪が少ない）」という順位になっている。

一方、転入者が魅力を感じない点は、「買物をする場所・内容が充実」40.3%、「通勤や通学などの交通の便」37.4%が上位に挙げられ、次いで「雇用の場」28.1%、「医療機関の充実」22.9%と続く。ここでも、生活の利便性だけで転居を考えていないことが伺える。

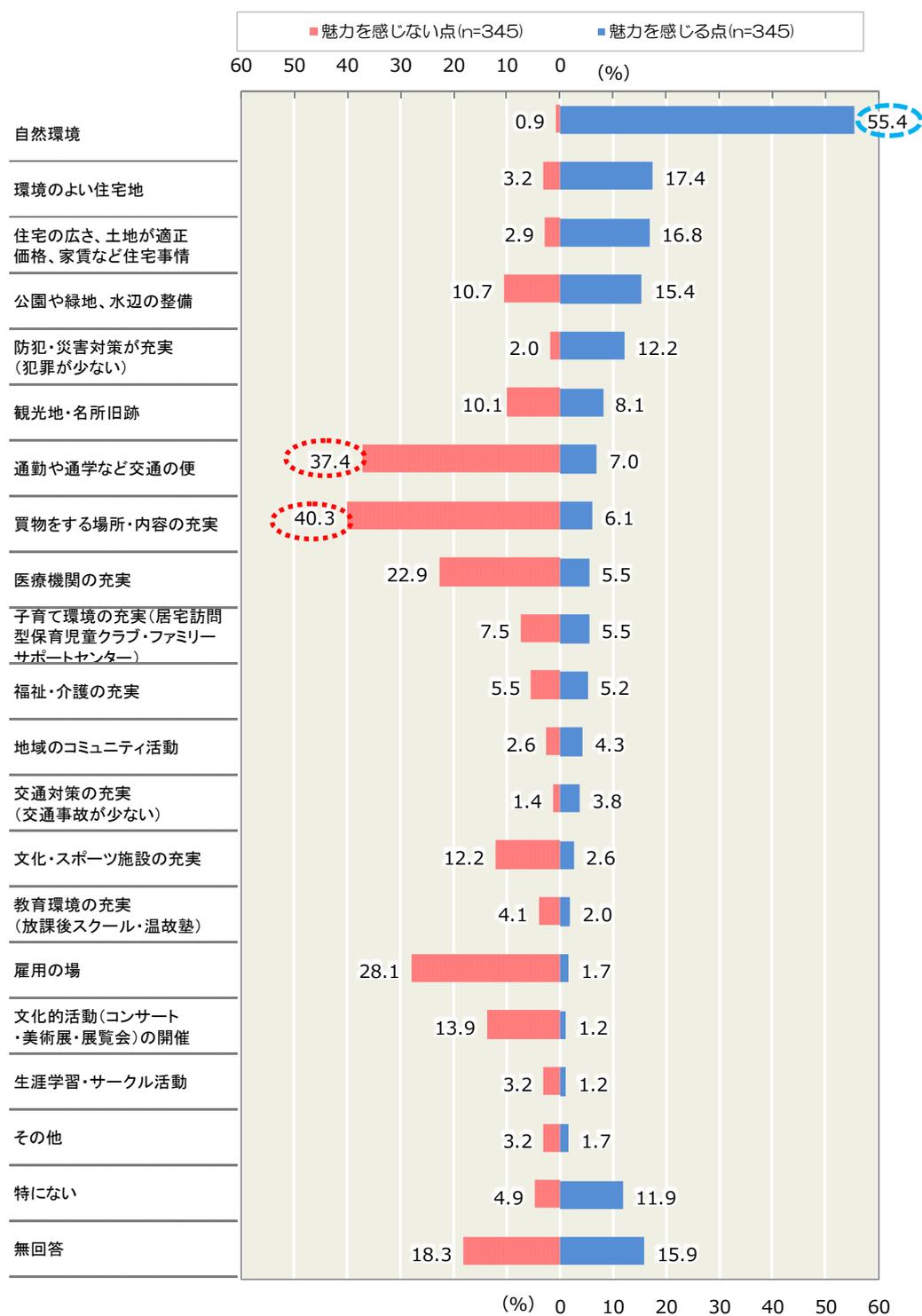
転出者が指摘する、阿賀野市のよい点、わるい点を見てみよう。ここでは、最近まで阿賀野市に住んでいた人たちであるため、市に対するシビアな指摘をしているものと思われる。設問は、イメージで捉えるのではなく、「よい点、わるい点」として聞いた。

転出者が指摘するよい点は、71.2%が「自然環境」を挙げている。2位～4位は20%台で「環境のよい住宅地」、「住宅の広さ、土地が適正価格、家賃など住宅事情」、「公園や緑地、水辺の整備」と続く。

一方、わるい点は「通勤や通学などの交通の便」52.9%、「買い物をする場所・内容の充実」41.6%、「雇用の場」32.3%が指摘された。

阿賀野市の特徴として、転入者・転出者ともに大多数が利便性よりも豊かな自然を享受できることを魅力やよい点と捉えているようである。

図表 23 転入者／阿賀野市の魅力度（魅力ある点と魅力でない点）（複数回答）



図表 24 転出者／阿賀野市の魅力度（よい点とわるい点）（複数回答）

